

[事前評価]

課題名 ランドレース種系統造成における新たな育種方法の検討

(平成 31～34 年度)

【課題の概要】

養豚の生産現場では、主にランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種を交配した三元交雑豚を肉豚として生産している。ランドレース種は、多産で繁殖能力が高く、発育も早いという特徴があり、広く母豚として用いられている。当所では現在、ランドレース種の繁殖能力を改善するため、新たにランドレース種系統豚造成の準備を進めている。

養豚の生産現場からは、生産性を高めるために長期間安定した繁殖成績が期待できる優良種豚の供給が強く求められているが、従来の豚の系統造成の手法では、閉鎖群の 1 年 1 産で選抜を繰り返すため、選抜された豚の 2 産目以降の繁殖性に関する知見は得られていないのが現状である。

そこで、閉鎖群での種豚選抜において、2 産目以降も安定した繁殖成績を有する種豚の選抜手法を確立することで、種豚の長期供用と生産性の向上を目標とする。

【評価結果】 (評価委員数 4 名)

○各項目の評価 (各評価委員の平均点)

研究の必要性・重要性	期待される成果・貢献	既往研究等との関連性	創造性・獨創性	研究目標の妥当性	研究方法の妥当性	合計点
4.8	4.5	4.8	4.5	4.8	4.3	27.7

○総合評価 A：採択

(A：採択 B：計画を見直し採択 C：不採択)

【委員の意見助言と対応策】

評価項目	意見・助言	対応策
研究の必要性・重要性	・長期供用できる種畜の開発は重要である。長命連産性に着目した本研究は先見の明がある。	—
期待される成果・貢献	得られた結果を選抜目標に入れることで、改良効果が期待できるが、飛躍的な向上が見込める訳ではない。	・これまで知見の無かった形質について、繁殖成績との相関を調査し、長期供用と生産性の向上を目指す。
既往研究等との関連性	・関連する研究成果や動向等の調査は十分行っていると思われる。	—
創造性・獨創性	・長命連産性に着目した本研究は新しい考えに基づいている。	—
研究目標の妥当性	・2産次の成績を活用して改良効果を判定する目標は妥当である。	—
研究方法の妥当性	・現状の系統造成を続ける中で新たな手法を検討するためには他に手段がなく、方法は妥当である。	—
総合評価	・新規系統造成の基礎データとなるので、適切な試験規模、期間で実施していただきたい。 ・より良い肉質の豚をより安価に消費者に提供するために、産子数、受胎率と連産性に優れた系統豚の作出を期する。	・有識者に助言をいただきながら、適切な試験規模、期間について検討し、決定する。 ・県内養豚農家の経営改善に効果的な系統豚を作出できるよう、改良を進めていきたい。